

(5) アンケートの結果と概要

アンケート調査実施日	平成26年8月3日(日), 平成26年8月17日(日)		
アンケート調査方法	用紙による記入		
アンケート対象者	小学生以上の来場者 291人		
(内訳)	小学生	179人	(回答者の62%)
	中学生	25人	(回答者の9%)
	高校生	5人	(回答者の2%)
	大学生・一般	82人	(回答者の28%)

① 来館者の傾向

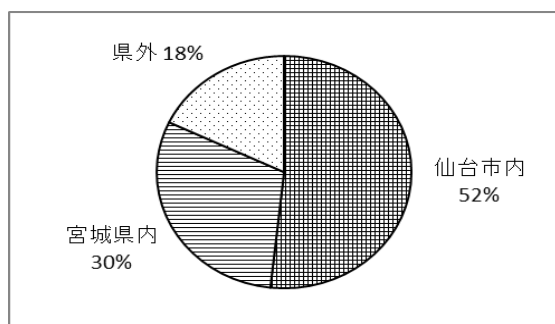


図1 仙台市内、県内、県外の3区分で見た来館者の割合

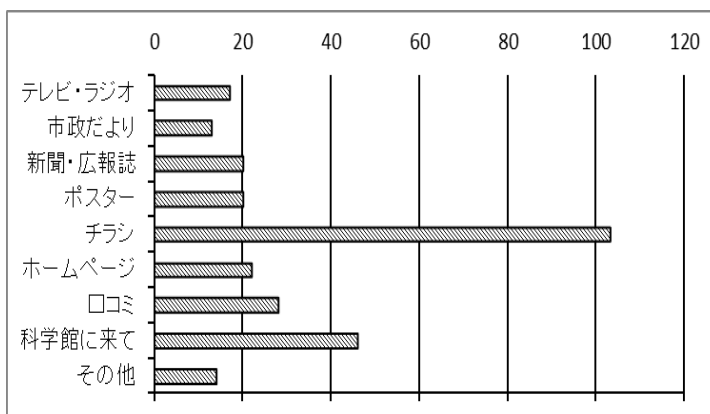


図2 特別展に関する情報源

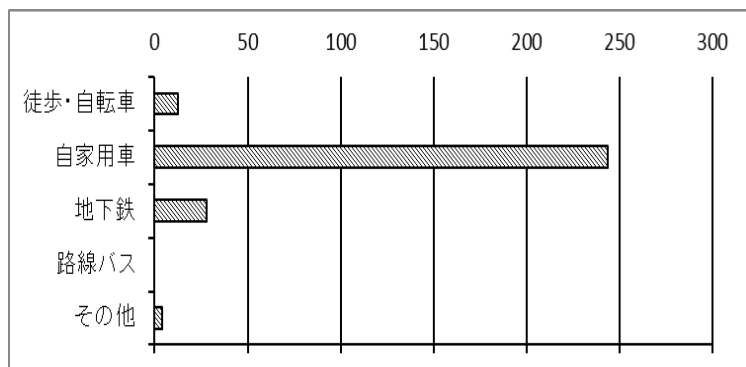


図3 科学館への来館時の交通手段

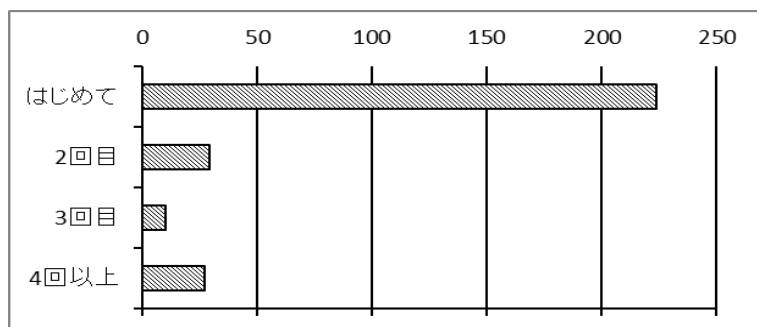


図4 開催期間中の来館回数

●図1は、仙台市内・宮城県内・県外の3区分で見た来館者の割合を示している。約5割が仙台市内、約3割が県内、約2割が県外であった。これにより仙台市内を含め宮城県内の来館者が8割を占めていることが分かる。今回、県外から多く来館してもらおうと試みたが、成果が現れにくかった。来年度以降の課題であると考え。

●図2は来館者が特別展をどのように知ったかについてまとめたものである。科学館が宮城県内の小中学校に配布した「チラシ」を見て、来館した数が突出している。ついで「科学館に来て」が多い。年間を通じて行っている自然観察会や工作教室では「市政だより」の比率が高いのに対して特別展では市政だよりの比率が低い傾向が認められる。また、「口コミ」も比較的多いことから、来館者が特別展に魅力を感じ、知人に勧めたのではないかと思う。

●図3は来館者がどのような交通手段を用いたかを尋ねたものである。例年同様に「自家用車」が突出している。その一方で地下鉄利用者が例年よりも多い傾向がある。これは、混雑が予想される旨をホームページ等で周知したことの結果であると考え。

●図4はアンケートに回答した来館者が何回目であったかを尋ねたものである。初めてが多いのは当然の傾向として、4回目以上が一定数いるのはリピーターの存在を示している。

② 特別展の評価

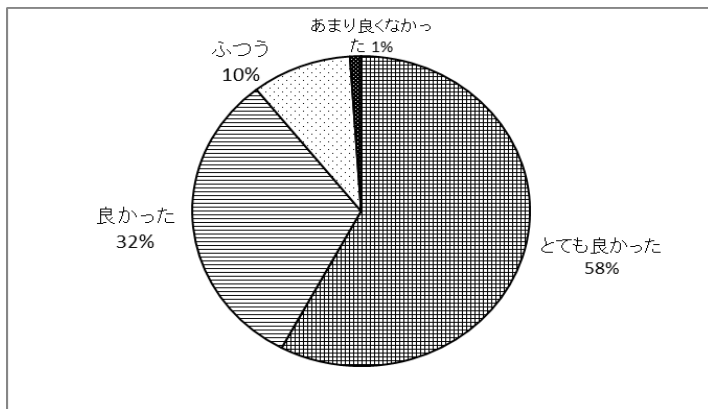


図5 来館者の特別展への評価

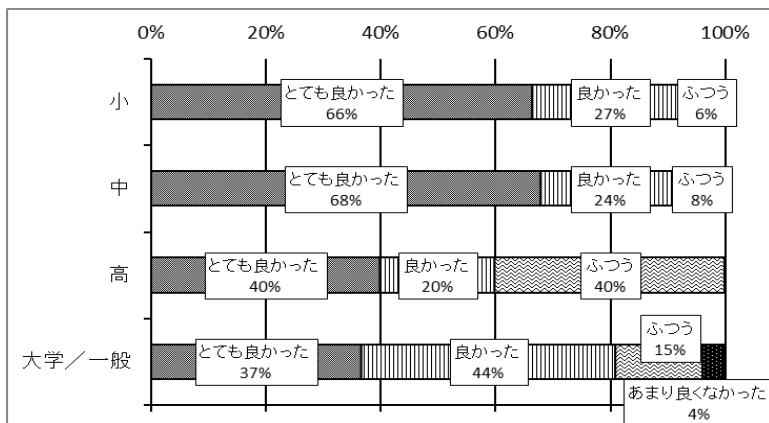


図6 年代区分毎に見た特別展への評価

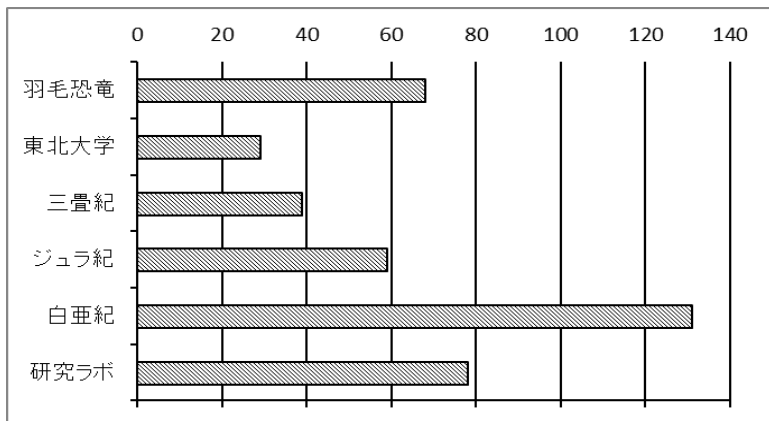


図7 来館者の各エリアへの興味

③ 次年度以降に希望する内容・テーマ

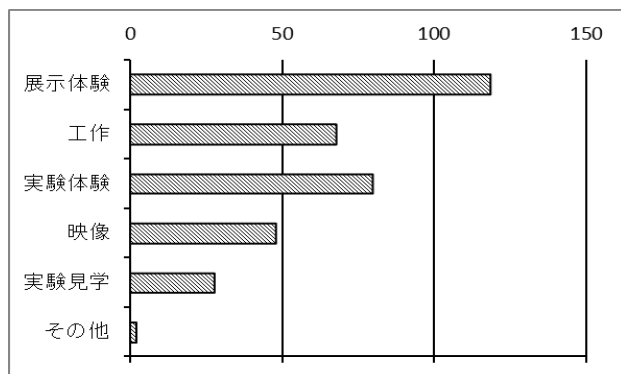


図8 来年度への特別展に対する希望

●図5は、アンケート回答者の特別展の評価を整理したものである。「とても良かった」「良かった」を併せて約9割となった。来館者の満足度の高さがうかがえた。

●図6は、年代区分毎にみた特別展全体の評価を示している。高校生を除く世代は「とても良かった」「良かった」を併せると約8割を超えている。しかし、高校生では、約6割程度である。これは、高校生の回答数が少ないことが考えられる。

年代毎に詳しく見れば、少なからず違いがあり「とても良かった」という回答では低年齢層ほど高い比率となり、一般からの回答には「あまり良くなかった」という回答が見られた。理由としては「見学者がうるさい」「会場が小さい」という意見が挙げられていた。今後の検討課題としてとらえていきたい。

●図7は特別展の中で興味をもったエリアについて尋ねたものである。「興味をもった」という回答が最も多かったのは、今回の特別展のテーマでもあるティラノサウルスの全身骨格が展示していた「白亜紀」のエリアであった。また、発掘体験ができる「恐竜研究ラボ」のエリアが人気であった。これは、実際に体験することができるので、高い支持を集めたものと推察される。エントランスで展示をした羽毛恐竜に関しても大きな生態モデルを展示したことで、興味を強く持ったと考える。

その他、具体的な記述としてー

宝石等石(複数)、自由研究に役立つ物、食虫植物、エレベーターやエスカレーター、人体のしくみ、トリックアート、鉄道、宇宙(複数)、海洋性のは虫類研究、身近な動物の先祖、海の生物(複数)、動物、食べ物、飛行機、恐竜、実験、ほ乳類の進化、人力飛行機、深海(複数)、昆虫(複数)、原子力、隕石(複数)、植物、地球、東北の自然